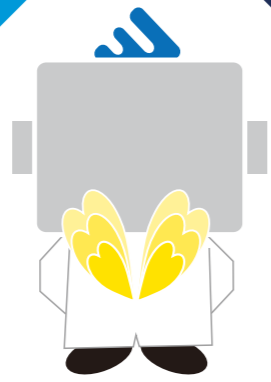
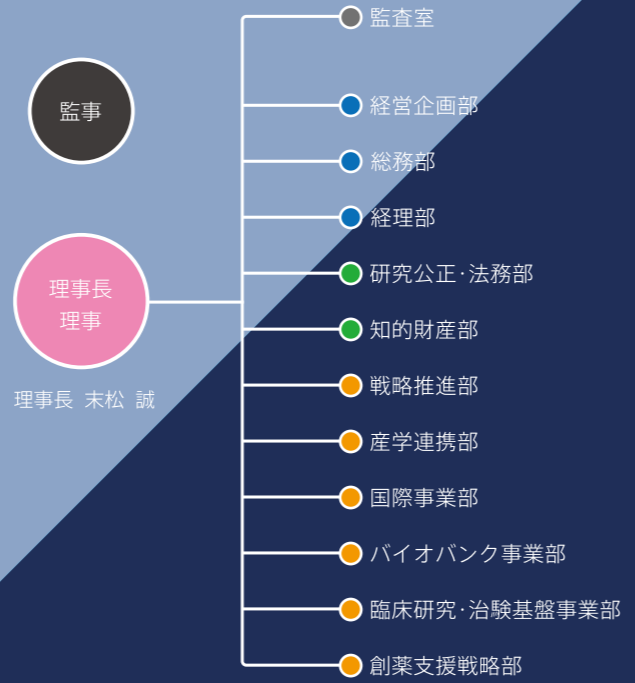
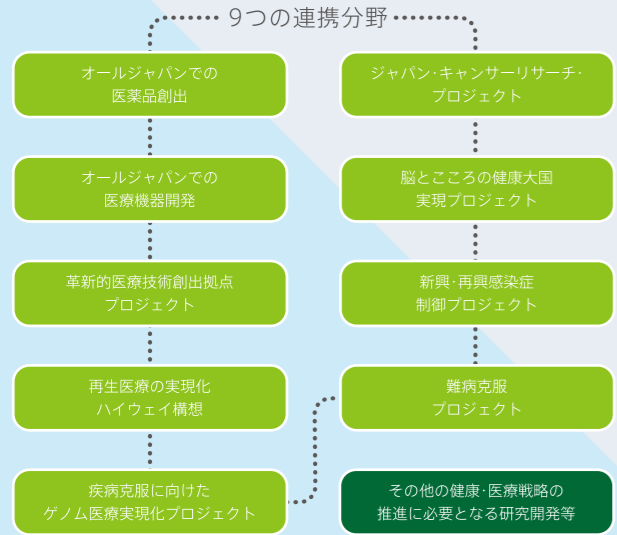


日本医療研究開発機構 (AMED) の事業

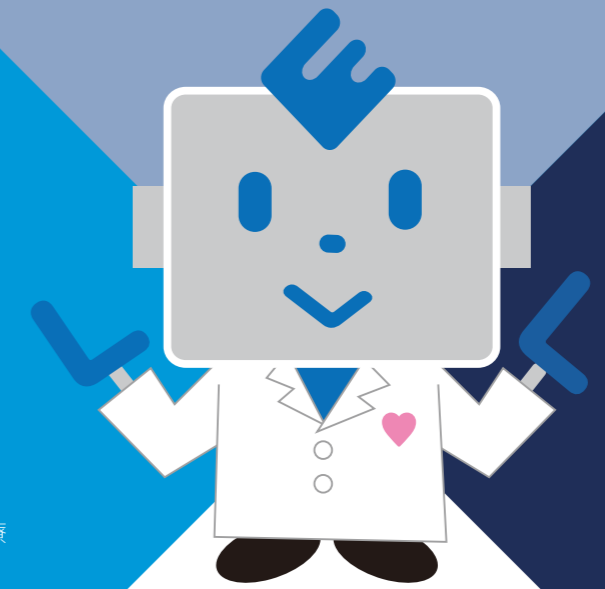
国が定める「医療分野研究開発推進計画」に基づき、再生医療、がんなど9つの連携分野を中心とする医療分野の基礎から臨床までの研究開発を一貫して推進し、その成果を円滑に実用化につなげるとともに、それら研究開発の環境整備を総合的、効果的に行うことを目的とした各種事業を行っています。



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

Life,1
「生命」

人を対象にした生命科学



Life,2
「生活」

自分や家族、
周りの人が健やかに暮らし、
生活の質を高めるための医療

Life,3
「人生」

人の一生を通じた
長期的視点での医療や、
感染症・高齢化など国や世界単位で
取り組むべき社会的な問題

3つのLife?

～3つの「ライフ」を大切にする医療研究開発～

これまで「医療」は、病気の治療や生命の維持に重点を置いてきました。AMEDは、一人ひとりのQOLや幸せも見つめた医療、つまり「生命」(Life,1)だけでなく、「生活」(Life,2)や「人生」(Life,3)も含む「3つのLife」を大切にする研究開発を応援していきたいと考えています。



日本医療研究開発機構(AMED,“エームド”)は、2015年4月に生まれた、医療分野の研究開発の中核的な役割を担う新しい国立研究開発法人です。これまで、文部科学省・厚生労働省・経済産業省に計上されてきた医療に関する研究予算を集約し、基礎段階から実用化まで一貫した研究費の助成と研究開発のマネジメントを行います。

STOP! 感染症。

最近、なじみのない感染症や、過去に流行した感染症が再び猛威を振るうというニュースを耳にする機会が増えています。公園や学校、会社などで感染が広がる可能性もあり、感染症はさらに身近な問題となってきています。AMEDでは、新型インフルエンザ、デング熱、エイズなどの感染症の診断・予防・治療法の研究開発を進めています。また、海外の研究機関やODAとも連携し、途上国の感染症対策やWHOへの提言につながる研究も行っています。

難病は、病名を知ることから治療がはじまる。

つらい症状を抱えながら病名がわからず、長く苦しんでいる患者さんたちがたくさんいます。「IRUD(アイラッド:未診断疾患イニシアチブ)」は、難病に関する専門家の総力を結集、こうした患者さんの診断確定と病態解明を進める体制づくりにも関わりながら研究を進める取り組みです。希少な病気ならではの困難に直面する患者さんたちのQOL向上を目指して、まずは診断、そして治療へ。長い道のりですが、日々進歩するゲノム研究の成果なども駆使しながら、AMEDと研究者たちは粘り強く努力を続けています。

研究成果は「知的財産」。 製品化に向け、しっかりまもる。

AMEDは、医療研究から生まれる研究成果を知的財産権として保護・活用するために、専門家による相談窓口を設けています。発明などの研究成果は、製品となって世の中で使われて初めて有意義な成果となり、これらが生活の質の向上や快適な社会につながれば、発明者にとっても、このうえない喜びです。研究成果を知的財産権という形で守り、研究者の開発意欲を高めていくことが、そうした製品づくりをさらに加速させるのです。

再生医療ならできるかも。

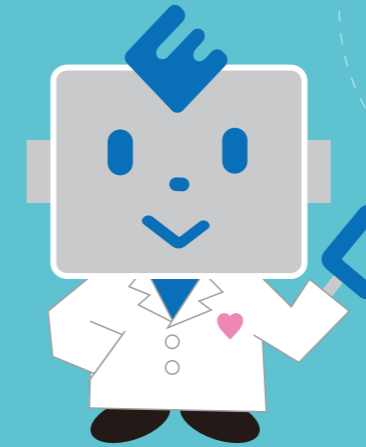
いま治せない病気を、将来治せるように。再生医療研究は、そういう願いから生まれています。再生医療は、従来とは異なる新しい治療法を患者さんに提供できる可能性を持っています。iPS細胞から作った細胞を人の網膜に移植し、視力回復を目指す研究が進んでいます。また重い心不全の患者さんの筋肉の細胞を培養してシート状にし、心臓に貼って機能低下を防ぐ医療製品が開発・承認されています。AMEDは、再生医療に関する研究・技術開発を通して、病気の原因究明、治療法や治療薬の開発に取り組んでいます。

血液で、がんがわかる。

たとえば、がん細胞が出すマイクロRNAと呼ばれる物質を、ごく少量の血液などから調べ、大腸がん、乳がんなど、日本人に多いがんはもちろん、膵臓がんなど発見しにくいがんも含め、13種類のがんを早期発見する研究の実用化が進んでいます。「ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクト」は、「がん研究10か年戦略」を踏まえ、がん医療に役立つ医薬品・医療機器の開発、がんの病態解明の研究から標準的な治療法を見出すための臨床試験までの幅広い研究を推進し、がんの根治、がんの予防、がんとの共生をより一層実現することを目指しています。

新薬が生まれるには15年以上もかかります。

病気の原因をつきとめ、新薬をつくりだすのが創薬研究。成功確率は3万分の1、15年以上の年月と莫大な費用がかかるといわれています。創薬研究を支援し、一分一秒でも速く、日本発の優れた新薬を患者さんに届けることがAMEDの使命です。大学等の研究機関で生み出された優れた研究成果を、確実に革新的新薬の創出へとつなげるため、「創薬支援ネットワーク」を展開し、オールジャパンの体制で頑張っています。



一人ひとりの個性に合わせた医療を。 ゲノム研究。

わたしたちの体は、DNAからなる遺伝情報(ゲノム)のわずかな違いにより「個性」を持っています。遺伝情報を解析することは、病気の原因の解明や、「その人」が将来かかりやすい病気を予測・予防し、もし病気になった場合にも適切な診断や、体質にあった治療をするのに役立ちます。AMEDは一人ひとりの個性に合わせた、オーダーメイドのゲノム医療を発展させるための研究を進めています。

信頼につながる、公正な研究活動。

社会に役立つための研究に、少しでも不正や科学の信頼を傷つけるようなことがあってはいけません。公正で適正な研究開発を実施するためには、研究活動に携わる一人ひとりの責任感がとても重要。AMEDは、配分する研究費による研究活動が公正かつ適正に実施されるよう、論文などにおける不正防止のための研究倫理の向上、研究費の適正な使用、法令・ガイドラインの遵守のための取り組みを行っています。

企業と大学が手をつなぎ、研究成果を実用化へ。

産学連携とは、産業界(企業など)と学術界(大学など)が連携し、基礎研究の成果を新技術などの実用化につなげる仕組みのことです。優れた研究成果は、企業によって製品化され、普及して初めて、私たちが実際に使えるようになるのです。AMEDは、一秒でも早く基礎研究の成果を患者さんの元に届けるため、様々な医学研究を推進しつつ、成果の実用化、企業による事業化を、同時に進めています。科学研究の成果を社会へと還元し、わたしたちの生活の向上につなげていきます。

高齢化。脳がわかれば、 もっと変わる。

団塊の世代が75歳以上の高齢者となる2025年には、65歳以上の高齢者はおよそ3500万人にも達し、医療や介護のニーズが爆発的に増大します。その中でも脳の変化により記憶や意欲に支障が生じる認知症は高齢者に多い病気の一つです。しかし脳についてはまだわからないことがたくさんあり、現在、それを完全に治せる薬はありません。AMEDは、人間の脳について理解を深めるための基礎的な研究を行っています。また、脳が原因で発症する病気の治療方法や進行の食い止め方なども研究しています。世界に先駆けて超高齢化が進む日本の対策に、世界が注目しています。